1.

久々御無沙汰致しておりまして申訳ありません。

考えてみますれば、ヒマラヤのそで貴兄宅をお伺いして以来のことです。

早くお手紙をしなければと思いつつも言訳があまりに多くてどのようにおわび申上げてよいやら（と思いなやでおるうち）遂に今日となってしまいました。衷心お詫び致します。

先日、お見舞の御手紙いただきましたように、二十年間の私の山厂に遂に遭難を記録としてしまいました。それが、私の弟という誠に思いがけない形で発生してしまいました。（弟であることはせめてもの罪ほろぼしと考えてはいます）

かねへ覚悟していたことはいえ、人間にとってその最大の悲しみは、ひしひしと私達をさいなみます。

今度のリノ外一名原にも又私自身にも又隊員にも及者すべき点はあまりに多く、一つ一つが深の種となります。東陸のオニテラスが、Cフェース直下か或は13次に、今弟が全く横たわっているようなことは考えられません。元気で出ていた、そのままの姿で帰ってくるように思われてなりません。

二日夜のおそろしい電話、三日朝ちかた

No.

助しい出発。岩壁に残された二人の検出、彼の遺体の死の押査。何ものも残ずして、両親に会うつらさ、すべては夢のようです。備し、結局ザイルの切断に思いは集中してゆきます。ザイルさえ切れなかったら、否、一体何故切れたのだ。そんな馬鹿な話かない……全くどうしてよいか分らない感情にかられます。結局私としてやるべきことは、この理由を究明する事によって、このような悲しみが二度とおきないように、すると云うことだと考えます。（大それた試みで到底出来る筈はありませんが少しでもそう努力したいと思います）。貴兄にも無理の御協力がお願い出来ると確信致します。或は主客テントウする可能性が大ですが、どうか、お願い申上げます。

（原稿は一月七日上高地で）

実はザイルの切断について同封がリバン刷りのものをつくってしまいました。が、出来ればこのような推測によるものを印刷発表する前に、よく実験し、或は夏までまって現場の調査してからにするのが本当だと思うのですが、一月六日の朝刊（毎日新聞）で竹節氏の記事で東壁のザイル切断はザイルの跡かんでなくて①ザイルのあつかい方、②古ザイル使用、③ザイルテストの不備、④ザイル組織、その他であろう

実は十生、14、15、16、17、と 胃病、病床にいましたので知りませんでしたが 15日夕刊に出たことを今知りました

と書かれてありましたのと、実験するにしても費用その地で簡単にはゆかないかも知れないと考え、ともかくさしあたって当事者である私達の見解及び事実について発表すべきで、もしも竹節さんの言が、ひとなくて、ガンそのものに欠かんがあったとすれば、次の遺族をおこす可能性があるとおそれたからです。それで、一月七日、上高地ホテルで大いそぎでつくって、同じものを五部うつし、一月八日下山の時松本で朝日、信毎、中日に渡しました。（ガンの切口の写真をとられました）。そのうち中日では大異、記事となりましたが（記事とする前に、ガンをうつられた態決況に私の記事をみせ、記事の内容、特に欠陥、状況がまちがっていないか、たしかめられました）朝日では全然でません。私はこの理由がわかりませんが、①私の記事の誤り、又はおんどうでない。②メーカーの圧力 ③その他 と思っています。藤木九三先生は御なくなりせるが、要するにすべてはガンに関する実験にあると考えています。ガンの切口については、樋本さえもよく御存じです。尚、樋本さん方には格別御世話様になりました。貴兄からも謝意感謝していたとお伝へ下れば幸です。

誠に話がちぐはぐですみません。

救われた二名については、梶本さん よく御存じですが、ともかくも助かったことは、不幸中の幸と存じます。凍傷の模様は、医者自ちもよく分からないらしくて、今日はっきりしたことは いってくれませんが、最悪の場合、両足の右足オヤ指切断だそうです。とにかく凍傷には経験のない医者ばかりです。何かよい御教示はありませんでしょうか。

私達の将来に関する問題が次に残びあります、かんべの町、三重県の反響は むしろ若干の結束、向上を、求める声が現在強いとのことで、私にとっては 非常に意外な現象です。併し、私自身は、今回だけでなく、会そのものに多くの反省すべき点があり、そういうものが、各自反省され、完全に修正されるのでなければ 次の遭難は又可能性があることになって、それならば むしろ

かいさん すべきだと考えるのですが、併し、かいさんすれば 各自でたらめに山に入って、むしろ遭難の危険を増すという市民の声に、一体どうしたらいいかと思い悩みます。石宗はあるまでいせるが、しかし、反省すべき内容を申上げていないので、むつかしいのですが、個性、従来の技術そのものに対する、けつかん、等微妙で、一度お目にかかりたいと思います。

No.

これからの会の目的を間違えますと、実は
次に、この二点は既に申しあげてしなければならないことなのですが、云い
そびれ、申訳もありません。あるいは御存知かもしれませんが、昨年七月
長越さんから新潟さんの依頼との二点で、ホクホクのガイドブックをかいて
くれとたのまれました。これは既に貴兄の「穂高岳」でつくされているわけ
であって、何も私のやるところはないと思ったのですが、当時、本部の二点で
いそがしかったので、心なきずも返事をかかずに、どうしたものかと思っ述いま
した。併し、ガイドブックとは、どういうことかと、もう一度考えてみますと、
例えば、穂高のどこどこの岩場のルートへ行ってみたいというこう
希望のある者に、①まずその人がその場所を登る実力があるかどうか、
即ち、安全に登るだけの実力をもつかどうかの、査定をすることが大切で
次に、②もしガイドブックさえあれば、間違いなくそのルートにとりつくことが出来
て登攀中といえども、目的、どのような位置において、これから、どの位の
時間がかかるのか、ということを知ることが、あると思います。
丁度、スイスのガイドは、例えば、客をマッターホーンについてグラードへ、やきたいという
とまず、手始めにゲレンデで客のテストをする。次に、つれていって、間違いなく
安全にもどってくる。わけですが、ガイドブックがそれのかわりをすれば

No.

よいわけだと考えました。又、最上は寫真を（みることが多くなっているので寫真とスケッチと、平面図をいつも同一スケールで並べていれば、ルートをみる目がはっきりすると考えました。併し、これは、①については意見がかっていえみえた。また、コンパスの、岩場等級表みたいなものをつくって、例えば中又白の上部のガラ〳〵の部分は、どの位むつかしいから、ここを登るには、少くとも、ここでテストしておかねばならないということが、自然にわかるように、しなければならないと思います。）併し、これは、又大へんなので、もし、新潟化が本年夏に間にあわせたいと考えておられるとすれば、新潟化だけのはなし果なので、一月に地形へいたるとき、小山さんに話をして、後房、本谷、白出のヤンを含め、調査をたのんで、私達は、屏風、谷、明神、妙川をやると一応話したのですが、事実は小山さんの小屋稼業で、不可能ではないかという事が後で分ったのですが、それで十二月に東京へいたるとき、新潟化、長越化、（共に初級面で非常に嬉しかったでした）にお願いして、この三点について、よく話しあって、明年の夏にまに合えばよかろうと思ったきました。（新潟としては昨夏と昨秋とで、屏風、谷、明神、を強でのぼりなおし、寫真はかなりあつめましたので、みていただいて、一応意見のあるところを、そのつもりで

No.

了解してもらえるわけです。実は長然さの発言で主な初登攀記録を入れたらどうかということで、私も賛成しましたが、併しそうなると、私達だけの努力ではどうにもなりません。すべてのルートを登りなおして比較したり、ルートを[illegible]うしたりすることは出来ても初登攀記録となると、その記録をかいた人が誰であろうか、どうしておかするかという問題むかという事がわかりませんので、これは、貴兄にお願いしなければならない。（もとより登るべきそうでなくてもルートのすべては、貴兄の「私案」による以外になく貴兄のお許しと強力をえなくては何ひとつ出来ませんが）と考え、会内が絶り切り全力をそちらに向けようと考えていたのです。併し、今や意外の事件で「すべてのルートを登る」ということ、なければ、それどころか、このガイドブックを作るということ自体に、否、岩稜会そのものにもけんとうさるべき事態となって、一切は白紙となったとも、みてよいのですが、もう一度総会でおのりなおすことになるわけですが、わたくしとしては、私の弟もこのことには、協力していましたので、その記念の意味をもかね、ここで目標をガイドブックにおきたいと願っている次第です。本当に勝手なことばかり申上げてすみませんが、そうなったときには、どうか

8

No.

よろしく、大学通り御指導 御鞭撻 ゴたのみますよう 何卒 お願い申上げます。

別紙がりバンガリにつて、私自身の規模的なあまり、資料のミス等、考えていただき、又実験につての方法等 御教示いただければ幸と存じます。

誠に乱筆失礼ました

尚、来年ながら国外に出とお待ち下さいますよう。

有十分

五岡邦彦

スワヲ 堀内様